

歯周病はどんな病気？

昔は「歯槽膿漏」今は「歯周病」といいます

歯周病とは

歯周病とは、歯の周囲に付着したプラーク（歯垢）が歯と歯肉の隙間に入り込み、歯を支えている骨を溶かしてしまう病気です。プラークには非常に多くの細菌が含まれていて、その細菌の出す毒素が歯肉に炎症を起こし、そして歯を支えている骨を溶かすのです。また、歯周病は歯を失うだけでなく、心臓病や糖尿病などの全身疾患にも悪影響を与えています。

- 虫歯と歯周病は、「歯の二大疾患」と呼ばれています。
- 成人の8割は歯周病を持つと言われており、気づかない人がほとんどです。



歯周病の種類

歯周病は、歯肉炎と歯周炎の2つに分けることができます。

●歯肉炎

プラークが歯の周りに付着することで歯肉に炎症が起こります。

- ◎単純性歯肉炎、妊娠性歯肉炎、壊死性潰瘍性歯肉炎

●歯周炎

歯肉炎が進行すると、歯を支えている骨に影響が出て、歯ぐきから血や膿が出たりします。

- ◎成人性歯周炎、早期発症型歯周炎、思春期前歯周炎、若年性歯周炎、急速進行性歯周炎

歯肉炎は、歯茎が腫れるなどの症状をいいますが、歯周炎は、骨にも炎症を起こし、そのうちに歯の骨が痩せていき、歯がぐらつき始めます。

生活習慣病との関係

高血圧・高脂血症・肥満などは、症状が軽くても心臓病や糖尿病などの生活習慣病になるリスクを高めますが、この生活習慣病のメカニズムに歯周病が影響していることがわかってきました。また、骨粗鬆症や糖尿病などがあると、歯周病が進行しやすく、治りも悪くなります。

